

児童の主体的な活動を保証するための学校の枠を越えた協調学習 - 30以上の課題を同時に進めるためのインターネットの活用 -

茨城県つくば市立並木小学校 毛利 靖

<http://www.namiki-e.ibk-tt-net.ed.jp>

tsukuba@namiki-e.ibk-tt-net.ed.jp

キーワード 主体的課題, 協調学習, ネットワーク, 環境学習

1. 企画のねらい

本校では、「総合的な学習の時間」として、環境や科学の学習を行っている。その学習では、自分で課題を見つけ、主体的継続的に学習を行うことを大切にしている。そこで問題になるのが、課題の数が増え、教師が対応できず、児童の学習に深まりが見られないことがある。そこで、学校の枠を越え他の人々と連携して学習を深める必要が出てきた。そのためにネットワークやインターネットを利用しようと考えた。

本企画でのネットワークやインターネットの利用は、「総合的な学習の時間」での児童による主体的な課題作りや継続的な学習を保証するためにはどうしても必要になってくるものである。それは、インターネットを利用すれば、学校にいながらにして、他の学校と共同学習できたり、専門家にアドバイスをいただくこともできると考えたからである。

2. 研究の内容

(1) 第6学年での「総合的な学習の時間」での取り組み

1) テーマ「夢に向かって」

2) 活動の実際

ア. 「夢に向かって」の学習テーマとグループづくり

子どもたちは、第4・5学年の理科、並びに環境学習の実践で身につけてきた力をもとに、自分のかなえたい「夢」の実現に向かって、初めに学習テーマづくりを行った。オリエンテーションでは、子どもたちがそれぞれに興味があることや将来の夢について話し合いを行った。そこでの話し合いでは「これまでの自分、そしてこれからの自分」をテーマに今までの自分を見つめ直し、自分にできること(可能性)とやってみみたいこと(夢)とは何かを考え、そこから学習テーマをつくっていった(画面1)。その結果、40以上の課題を行うようになった。

イ. 専門家や他校と連携したアサザの栽培

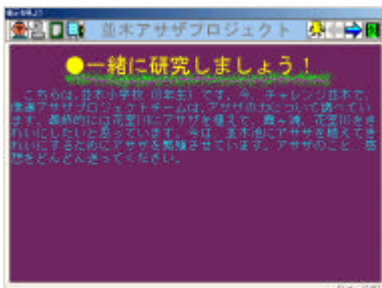
水を浄化する作用が大きい水草の一種にアサザというものがある。きれいな花室川を目指すグループの児童が、インターネットを検索してそれを見つけると、アサザできれいな花室川を目指すグループではインターネットでアサザの研究をしている「アサザプロジェクト」(写真2)から種をいただいたり、アサザで霞ヶ浦をきれいにしようとしている美浦村立大谷小学校とメールで共同研究を呼びかけ、繁殖の方法などを教わりながら、本校の観察池でアサザを育て増やしていった(画面3~5)。



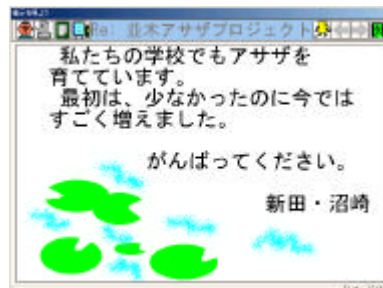
画面1 児童が考えた学習テーマ



画面2 アサザプロジェクト



画面3 本校児童が呼びかけたメール



画面4 他校からのメール



画面5 実際に育ててホームページに

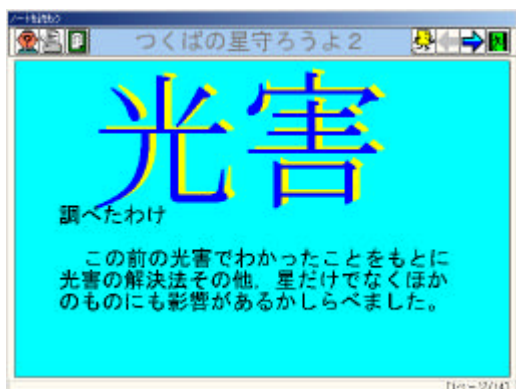
E スクエア・プロジェクト成果発表会

ウ．蛍の発光にも影響を与える光害の研究

夜の光（街灯，ネオン，自動車のライトなど）が環境にどのような影響を与えるのかを調査しようと考えたグループ（2名）は，教師に質問したが「星が見えにくくなる」程度のことしか誰も答えることができなかった。図書資料も探したが，見つからず，インターネットで調べていた。すると，千葉県柏市のプラネタリウムのホームページ（画面6）に関連した内容があることを知り，電子メールを使って交流することになった。（質問ではなく交流としたのは，プラネタリウム側でも児童に対して質問をするなどのやりとりが行われるようになったからである）こうして，光害は，夜に星が見えにくくなるばかりか，植物や昆虫，特に蛍に関しては発光しなくなるものまででてくるほどの被害があることがわかってきた。そこで，他の友だちにもこのことを考えて欲しいと願い，学級の時間で話し合いを持つほどになった（画面7）。その話し合い活動では，マルチメディアボードを使って，プレゼンテーションを行った（画面8）。



画面6 柏市プラネタリウム



画面7 児童の作った光害のページ



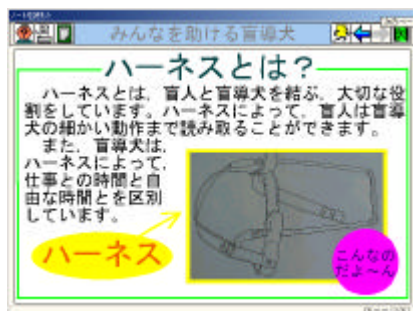
画面8 マルチメディアボードを使った発表会

エ．盲導犬訓練士をめざす児童が行った研究

また盲導犬訓練士をめざす子どもは，福祉に興味がある子どもたちと一緒にグループを構成し，盲導犬や介助犬について調べていく中でそこでも専門家や他校との自主的なかわり合いが見られた。盲導犬や介助犬について調べたことや共同研究の呼びかけを電子掲示板に登録したところ（画面9，10）東茨城郡内原町立鯉淵小学校の6年生から質問のメールが届いた。子どもたちは，互いにアドバイスをしながら研究を進めていった。盲導犬や介助犬のすばらしさを知った子どもたちは，ぜひ盲導犬や介助犬に会ってみたいとの願いに達した。そこで日本パートナードッグ協会に相談をしたところ，つくば市で介助犬教室が開催されるとの情報を得ることができ，本校でも児童主催で福祉体験学習を行うことができた（画面11）。



画面9，10 児童が盲導犬に関して掲示板に登録した内容



画面11 福祉体験教室

3．研究のまとめ

今回の研究では，児童の30以上のプロジェクトを同時に行うための方策を研究してきた。右の写真のように，昼休み，自由に他校とテレビ会議ができる環境も整えてきた。教師の役割も「指導する」ことから「ともに学んでいく」という姿勢に変わりつつある。今後も，児童の主体的な学習の場を保障するための道具として，インターネットを活用していきたいと考えている。

